

## 「今後の廃棄物処理制度の検討に向けた論点整理（案）」への意見

経団連環境委員会廃棄物・リサイクル部会長代行 高野 博幸

### 1. 今後の廃棄物処理制度の検討に向けた論点整理(案)について

今回お示しいただいた「論点整理(案)」のなかで示された方向性については、概ね異論の無いところである。

一方で、廃棄物処理法は極めて厳格な法律であり、その対象となる事業者に求められる報告等の行政手続は煩雑なものとなっているため、遵法意識の強い事業者にとり過度な負担になっているのが実情である。

わが国の経済社会システムを循環経済に変えていくうえでは、設計・製造段階から再資源化までのバリューチェーン全体での多数の事業者間の連携強化が必要であり、それを支えるのは資源循環への取組みが生み出す価値に対する消費者の理解、さらには官民連携による取組みの促進である。したがって、本小委員会での検討とりまとめにあたっては、新たなルールとして規定される対象や、運用のあり方について、事業者等とのコミュニケーションを十分に行っていただきたい。

本日は所用により欠席せざるを得ないため、論点整理案に対する現時点の考え方を次のとおり書面にて提出させていただく。

### 2. 不適正ヤード問題への対応について

不適正ヤードへの対応強化は、国内で発生する循環資源を、国内で利用する再生材原料等として確保する観点から重要である。質の高い循環資源への需要は近年一層高まっており、国内において質及び量の両面で十分な再生材を供給していく観点からも、資源の不適正な国外流出を未然防止することは必要である。ヤード環境対策の制度的措置を講じるうえでは、適正処理を怠っている事業者へ厳格な対応を行う視点に加え、適正事業者とのイコールフットィングを確保し、循環経済ビジネスの促進につなげる視点を持ち続けていただきたい。

### 3. PCB廃棄物に係る対応について

産業界は、低濃度PCB含有製品等の処理に鋭意取り組んでいる。本論点整理案に記されている管理制度の法制化に際しては、自治体の事務負担への配慮など、社会的な視点でコスト削減を検討することが重要であると解されるため、引き続き、経済界の意見をお聴き取りいた

だきたい。

またこの問題は、中小企業等を含めて裾野の広い対応が生じるため、自治体や事業者の負担軽減に繋がるD X化や一元管理を行うことなど、簡明且つ合理的で実効性のある制度となるようお願いしたい。

以上